

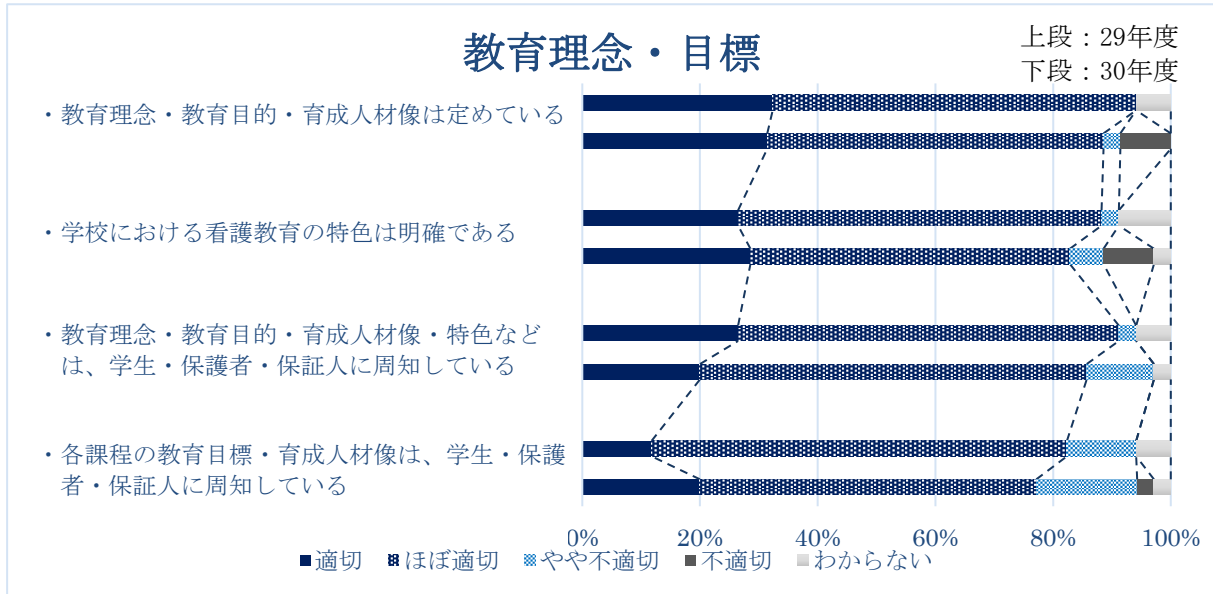
京都府医師会看護専門学校

平成 30 年度 自己点検・自己評価

I. 教育理念・教育目標・人材育成

N=35

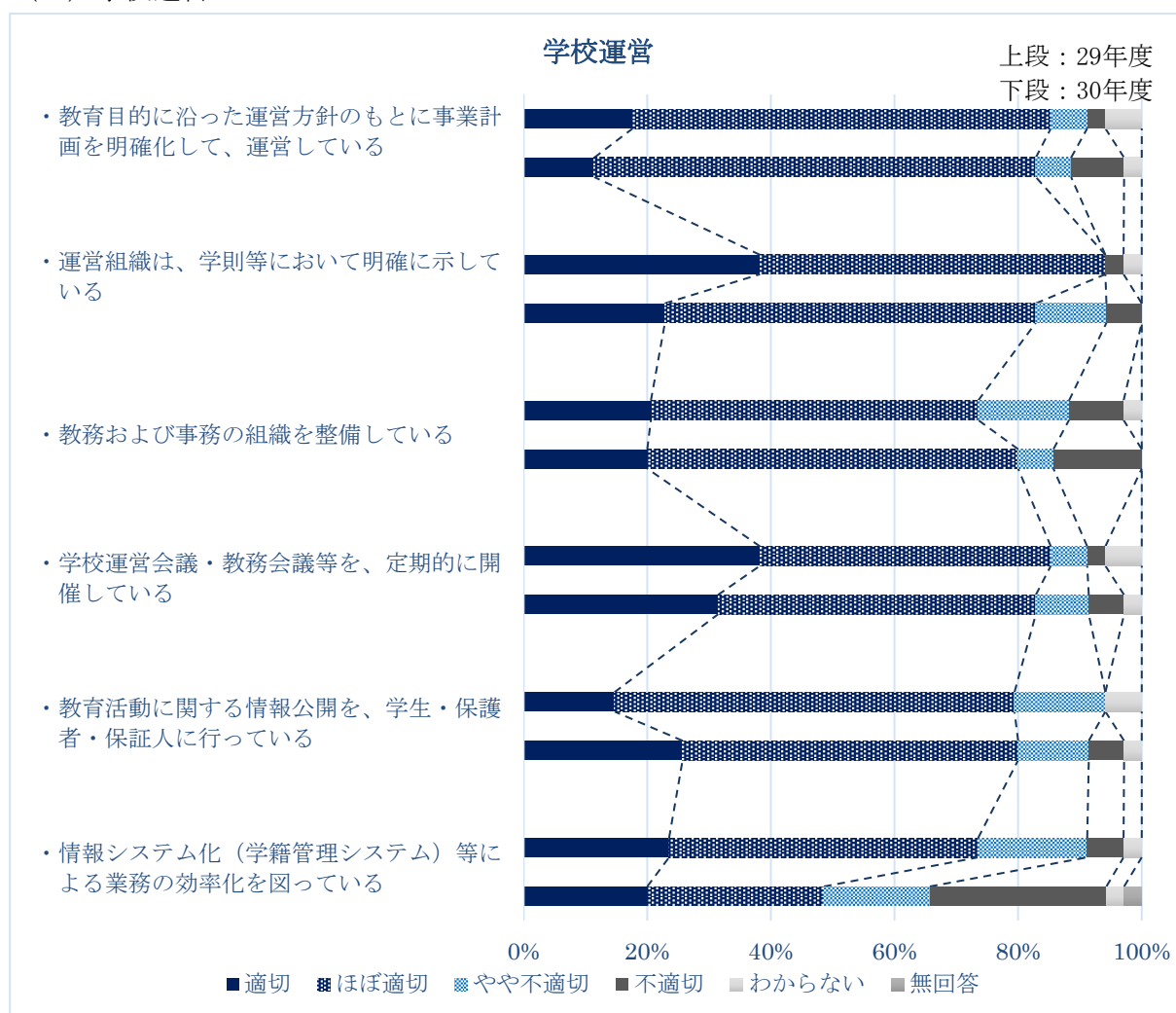
(1) 教育理念・目標



自己評価	外部評価
<p>教育理念・目標について、ほとんどの項目で「適切」「ほぼ適切」が80%台である。これは常に教育理念に立ち戻り、新入教員だけでなく、専任教員にも定着させるよう意識が高まっていると評価する。また、学生・保護者・保証人にもオリエンテーションやオープンキャンパスなどで学校公開の場が増えてきた結果であると考え。</p> <p>今後も新入教員にも理解ができるよう説明の強化や、入学式、保証人会、HPなどで教育理念については紹介しているが、参加や視聴できない方のために、さらに教育の現状および内外部の現状を詳細に発信できるよう工夫することが必要となる。今年度HPをリニューアルしたのでそこにも期待したい。</p> <p>本校の「看護教育の特色の明確化」については「やや不適切」が高くなっている課程もある。教員の経験年数などに反映されていると思われるが、特色を明確にし、教員全員が教育理念と共に理解していくことを課題とする。</p>	<p>慈愛・知性・勇気を基盤とされている教育理念は、将来の看護業務においてなくてはならない資質を端的に表現されている、大変素晴らしいものであると考えます。</p> <p>どの項目も、やや不適切の割合が増加している。職員の異動等の影響もあると思われるが、まず職員への周知徹底が必要と思われる。</p> <p>適切で問題なし。</p> <p>HPをリニューアルされて大変見やすくなったと思います。今後より多くの方へ学校の取り組みを周知できるのではと期待しています。</p>

Ⅱ 組織運営

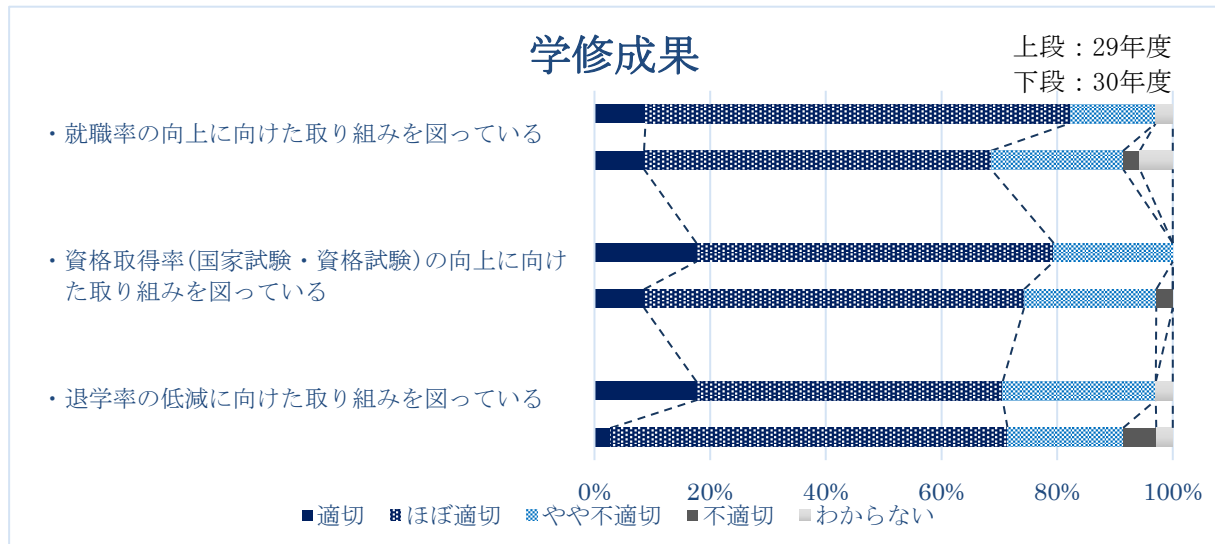
(1) 学校運営



自己評価	外部評価
<p>ほとんどの項目で「適切」「ほぼ適切」が80%と評価しているが、昨年度に比較して全ての項目に対して横ばい又は低下傾向にある。その中でも、「学校運営会議・教務会議等を、定期的開催している」や「運営組織は学則などにおいて明確に示している」では、「適切」の項目について昨年度からの低下率が大きい。今年度は新採用教員が多く、また運営会議の開催の回数は少ないうえに開催時期も実習期間中であり、教員は認識しにくい傾向にある。そのため、運営会議の位置づけや議決内容などを教務会議などで報告し共通理解する必要がある。教務会議は定期的に予定していたが、他の業務と重なりが生じた時の調整が不十分であったため教員の参加が十分でなかった。会議を効率的に運営するために時間厳守や検討項目の選定など、教員の満足できる運営の検討が必要である。</p> <p>また、「情報システム化などによる業務の効率化を図っている」について「適切」「ほぼ適切」は低くなっている。今年度に導入した成績管理システムに不具合があり、教員が操作しきれないことや、業務に支障が出たためと考える。</p>	<p>教育現場の情報システム化については、手法の徹底・教職員の理解促進・不具合発生時の迅速な対応等、種々の課題があると思います。教育活動のICT化も含めて今後さらなる発展が求められると思いますが、研修等の充実を図られ一層向上されることを願っております。</p> <p>病院の患者満足度を上げる為には職員の満足度を上げることが重要と言われるように、教員の皆さんがしっかり意見が言える場の提供は必須と感じます。</p> <p>情報システム化はシステム変更に伴う低下であると解釈でき、継続監視で問題なし。</p> <p>運営会議の開催回数が少なく、その議決内容などを共通理解する必要があるというところは気になることです。そのための教務会議の参加も十分</p>

「教育活動の情報公開を学生、保護者、保証人に行っている」は、前年度より改善している。これは新入教員が保証人会への参加や保護者との面談などを通して体験することで、情報公開の実際を確認できたことによると考える。	ではないということです。今後の取り組みをどのようにされるか期待したいと思います。
---	--

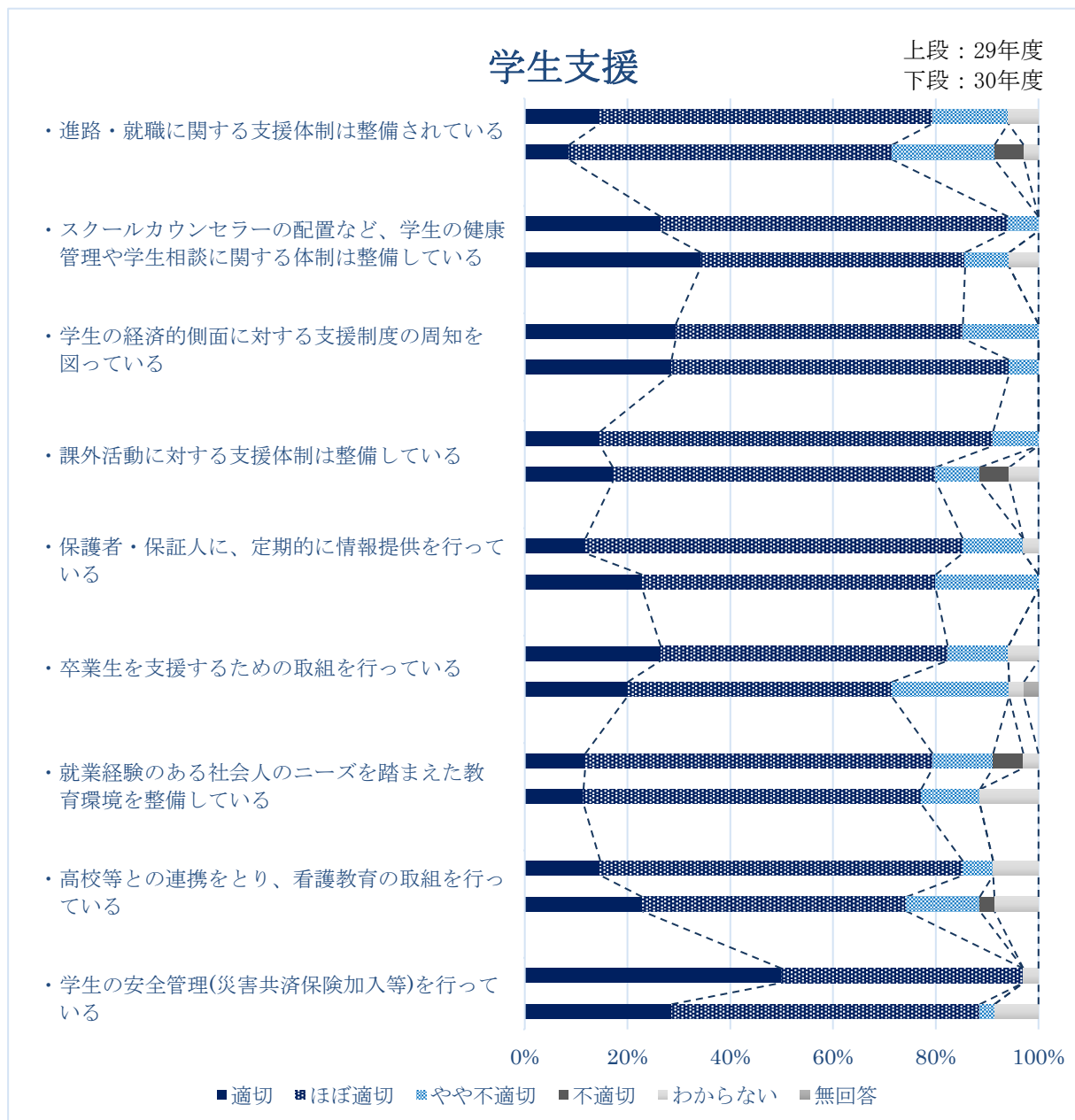
(2) 学修成果



自己評価	外部評価
<p>「就職率の向上に向けた取り組みを図っている」においては、学科によって結果は異なる。近年では、施設の就職試験の早期化や学生自体が主体的に職業選択をしない状況も含め対応や対策が必要と言える。また、就職試験で望む結果を得られない現状も増えている。低学年からなりた職業人像の意識づけや就職にあたり助言が必要と考える。その一方で自ら就職先を決定している学生や、奨学金を受け早期に就職先を決定している学生もみられる。</p> <p>「資格取得率（国家試験・資格試験）の向上に向けた取り組みを図っている」においては、結果としては前年度よりやや低下しているが、どの学科も国家試験・資格試験対策に力を注いでおり、試験対策の時期や内容を検討しながら学習を実施し、その成果を分析し継続的に学習指導を行っている。また、学内教員の補講に加え外部講師に協力を頂き資格取得に向けて努力している。今後も継続した取組を組織的に関りをすすめていき、学生のモチベーションの維持や近年低迷する基礎学力の向上、学生のメンタルケアを同時にサポートしながら学力及び資格取得率向上に努めたい。</p> <p>「退学率低減に向けた取り組みを図っている」では、退学の理由として、学習についていけない、経済状況、健康状況、家庭の事情（生活背景）など多岐にわたる理由があげられる。中でも、親世代を含む学生自体の学校生活や職業認識の低さも要因の一つと言</p>	<p>御校では将来の目的が明確な学生さんがほとんどであると思いますが、それでも些細なことをきっかけに心身の不調や自己喪失に陥るケースが少なからずあると思います。学生さん自身が将来像をイメージできる日々の活動となるよう、一層の支援強化を図っていただければと存じます。</p> <p>専門学校としては、やはり資格取得率のアップは重要であり今後も試験対策など学生の状況に応じた対応をお願いしたい。退学者ゼロは昨今の状況から考えても、難しいと思われる。</p> <p>退学率低減への取り組みについては、若年層の意思決定であり、社会一般にみられる傾向であるため、取り組みの継続で問題ない。</p> <p>就職試験の早期化についての対策はどのようにされるのか気になるところです。就職試験で望む結果が得られない要因の分析と対策をしていただくよう期待しております。</p>

える。スクールカウンセラー、教員が早期に相談に乗り、長期的なサポートをしている状況にあるがやむを得ない結果となることが多い。現状維持として早期に対応しながら、カウンセラーと教員の連携を強化し、学生の抱える悩みに気づき最善の策を得られるよう学校全体としても努力を要するところと言える。

(3) 学生支援



自己評価	外部評価
「進路・就職に関する支援体制について」と「学生の健康管理や学生に相談する体制について」は前年度より「適切」「やや適切」が低下している。サポートが必要な学生は少なくないが、個人対応などの窓口がなく、学生からの相談に対して個人的に実施している現状にあるが、教員の負担から考えると十分ではないと考える。	<p>学生さんにとって SC のみならず「教える」という立場でない方々の存在は大変大きいと考えます。様々なお立場の職員の方々がチームとなって学生さんのサポートにあたられる体制を一層強化されたらと思います。</p> <p>アンケートの回収率、内容が気になり</p>

<p>「学生の経済的側面に対する支援制度の周知」については、前年度よりも「適切」「やや適切」が改善している。経済面においては各種の修学金制度の説明や手続きなど事務のサポートを得て効果的な活用が出来ている結果であると言える。</p> <p>「卒業生を支援するための取組」については、前年度より更にポイントを下げている。カムバックスクールや学校祭を通じて、学校に立ち寄ってもらうことはできるが、参加人数が学科によって差があり、卒業前の日程の周知が更に必要である。また、卒業後サポート体制があることを周知し、各学科ともに適宜相談してもらえ体制を整えていくことが必要と言える。</p> <p>「課外活動に対する支援体制の整備」について「不適切」と回答している者もいる。これは、マンパワー不足により、学生支援のための教員間の連携・協力が十分ではないことによると推察できる。担任だけではなく学科の取り組みとして、教員全体の連携強化を図っていくことが必要である。</p>	<p>ます。良い評価についても学生の実際の声は必要ですし、悪い評価は改善に重要ですので回収率が上がる取り組みをして頂きたい。</p> <p>各専門学校（看護学校に限らず）、入学時から就職支援への意識強化必要である。⇒看護学校の特性？国家試験に向けて知識と技術中心の教育であるが、将来の「仕事」に繋げる意識が必要。</p> <p>教員のマンパワー不足、新人教員が増えている中で、学生の相談に対応する教員の負担について軽減やサポートを考えていく必要があるのではないのでしょうか。</p>
--	---

カムバックスクール

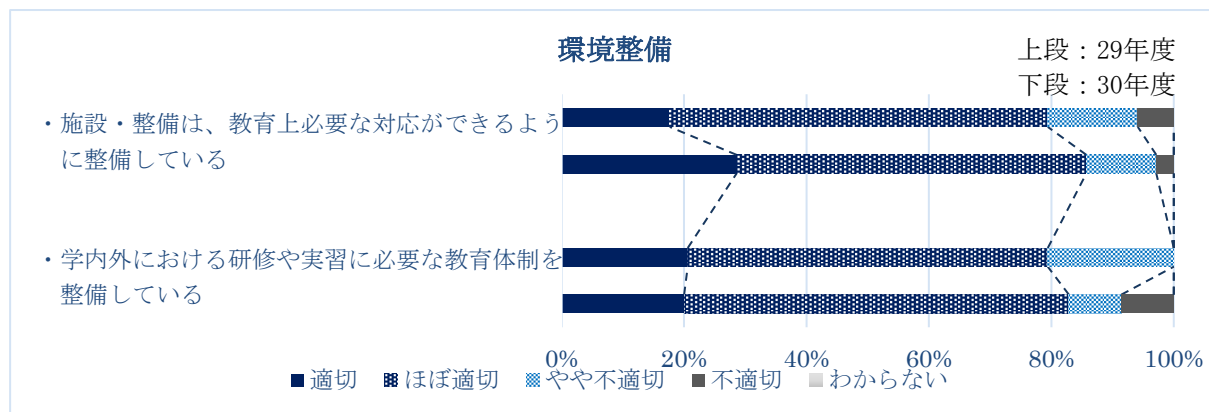
平成 30 年 8 月 3 日(金) 13:30～15:00

講演テーマ：「認定看護師への道ー精神看護についてー」

講師：大谷勇生先生 医療法人栄仁会宇治おうばく病院

(4) 教育環境

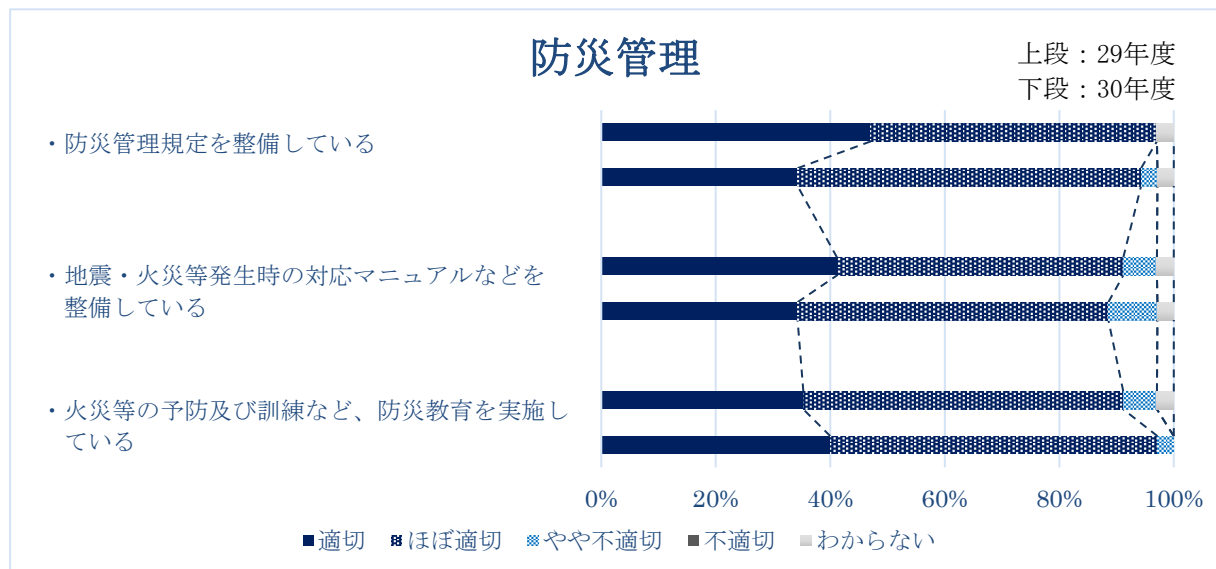
ア 環境設備



自己評価	外部評価
<p>施設・整備は、教育上必要な対応ができるよう整備しているについて「適切」「ほぼ適切」が90%であった。学生が落ち着いて学習できる学習室を2018年より設置している。国家試験、資格試験前には利用者数も増加しており、落ち着いて自習できる環境となっている。学内演習の必要な物品も定期的に購入し、学生が看護技術を習得できるように実習環境を整備している。学習環境としては整備しているが、校舎や学生が使用している椅子などが老朽しており、対策が遅れている。安全面を考慮し、順次、交換していく必要がある。</p>	<p>前の項目でも少し触れましたが、ICT環境の整備は進んでおられるのでしょうか。看護師の業務の中でどのくらいのレベルでICTの知識が必要になるのかは理解しておりませんが、どの職場に就職しても学生さんが困惑されないようにお願いできればと存じます。</p> <p>学習室の設置において利用者が増加している現状ということですので、学校として望ましい学習環境を整備されて</p>

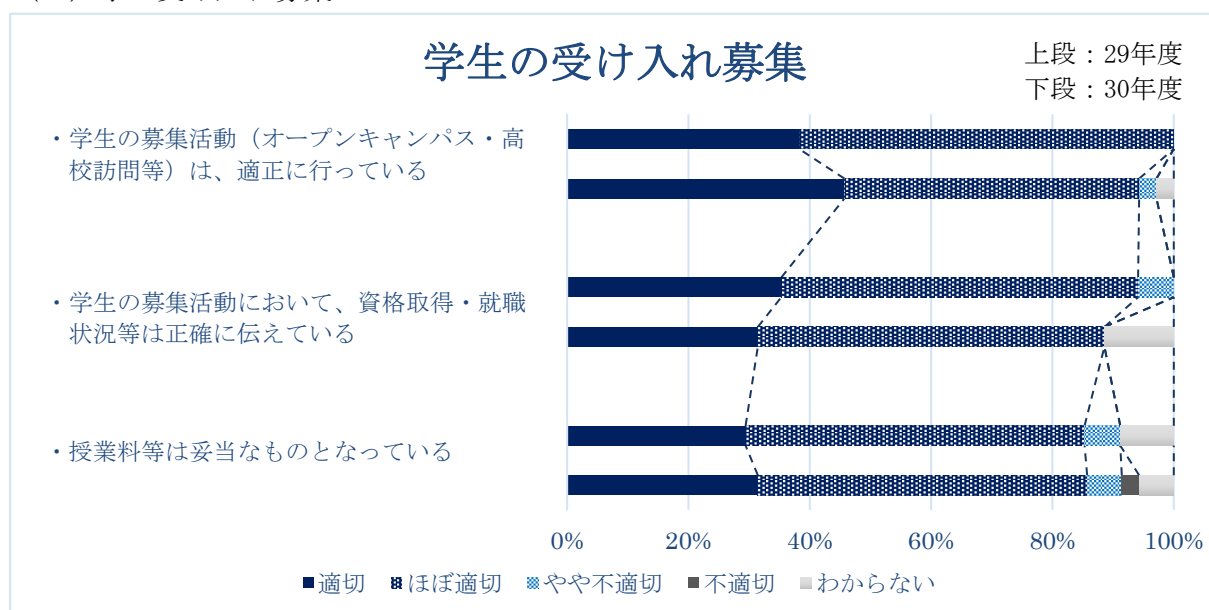
<p>る。</p> <p>「学内外における研修や実習に必要な教育体制を整備している」は、「やや不適切」が約 15%であった。実習施設から学校へ授業のために戻ってくるなど教員が移動に困難を生じているのではないかと考える。</p> <p>教員の実習配置と授業時期が重ならないような工夫を考えていきたい。</p>	<p>いるということが伺えます。</p>
---	----------------------

イ 防災管理



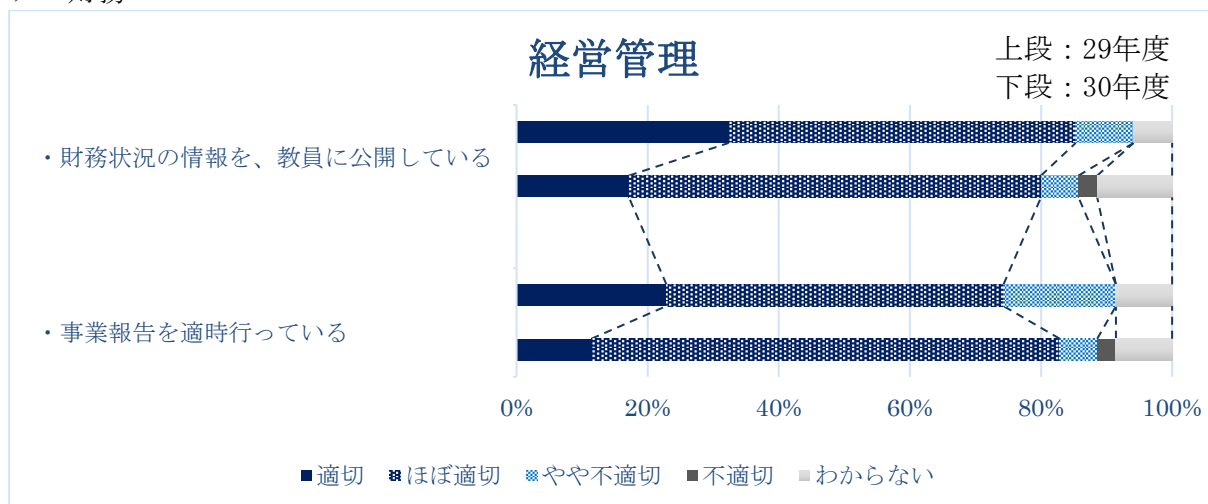
自己評価	外部評価
<p>全ての項目で「適切」「ほぼ適切」が 90%以上であった。年に一度、防災訓練を実施しているが、今年は教職員のみの防災訓練も行い、避難場所の再確認や、避難用具を実際に触ることで理解を深めた。また、今年は大雨特別警報、大阪府北部地震の災害があった。そのときの体験から各科・課程ごとに学生や教員の安全確認のための連絡網の工夫を行い、確実に安否確認ができるようにした。</p> <p>10 月からはHPがリニューアルし、緊急連絡などはHPで確認できるようになった。緊急時に備えて一度訓練をしていくことも必要である。</p> <p>今後は、緊急時HPにアクセスし、連絡事項を確認することを学生、教員に徹底し、災害時に安全に行動できるか評価していく必要がある。</p>	<p>防災訓練等で今後も一層管理の充実を図っていただければと存じます。一方で、学生さんは将来的に病院等の職場において、時には自己の安全より患者の保護を優先しなければならぬケースもあるかと存じます。そういった観点も踏まえての訓練も肝要かと思えます。</p>

(5) 学生受け入れ募集



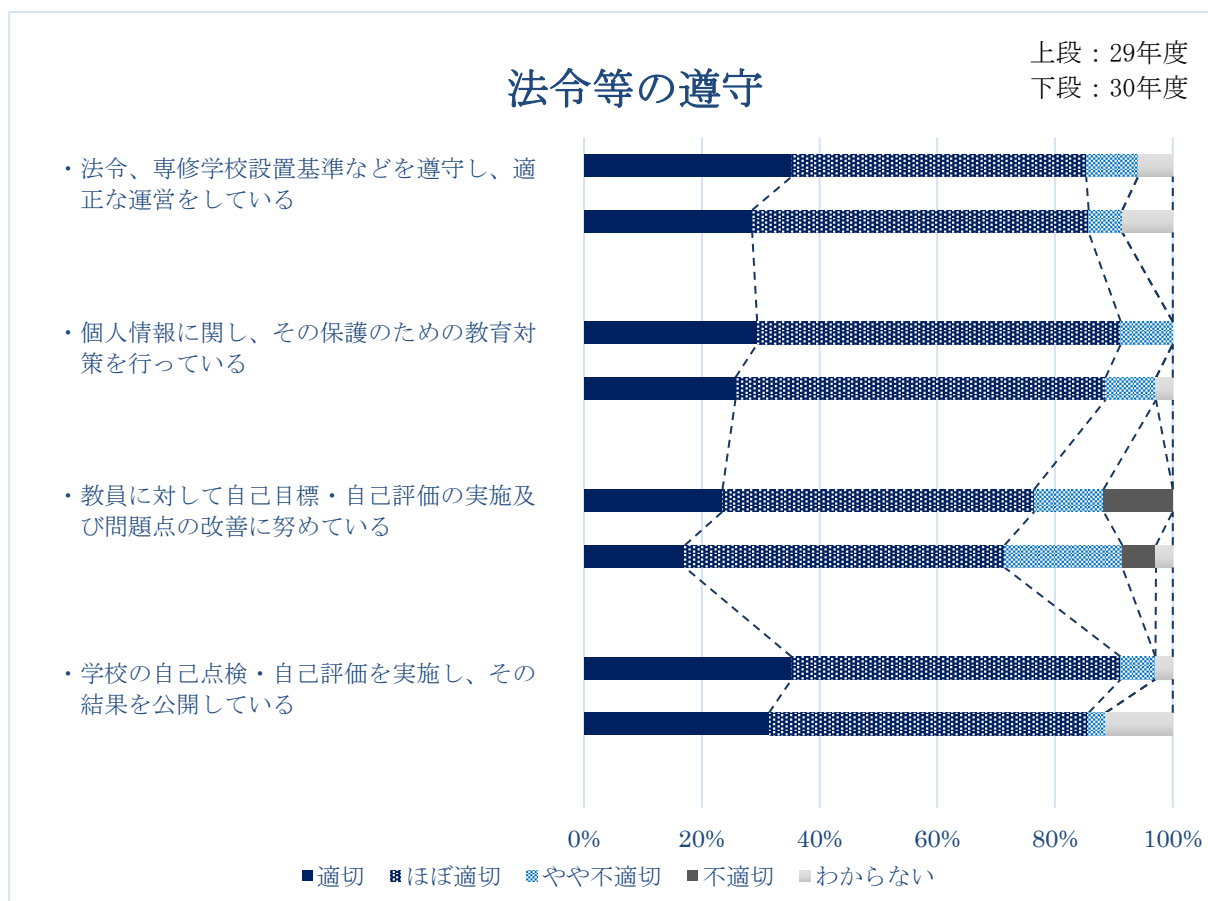
自己評価	外部評価
<p>「学生の募集活動」に関しては、「適切」「ほぼ適切」が90%以上であった。学校全体として、オープンキャンパスの実施がこれに反映している。2年課程は現状、進学する学生の獲得は困難な状況である。本校の准看護学科との連携、実習先を含む就労している准看護師に向けて看護師資格の取得からその後の将来像を伝える機会を今後検討していく必要がある。</p> <p>しかし、学校HPのリニューアルに伴い、より詳細な学科の紹介もできていることに加えて、各種広報媒体による広報成果をあげていることが周知されていると感じる。今後も内容を吟味し、充実していけるよう引き続き行い、資格取得・就職状況の伝達についても、学校案内やホームページへの掲載とオープンキャンパスで説明して本校を知ってもらい、より学生募集に繋げたい。</p> <p>「授業料等は妥当なものとなっている」に関しても昨年と変わらず、「適切」「ほぼ適切」が85%ぐらいである。学習者への金銭的負担は配慮し、各種、奨学金の紹介に尽力している結果と取れる。</p>	<p>もしまだであれば、HPでの紹介に加えてフェイスブック・ツイッター・Instagram等のSNSを活用されるのもひとつかと存じます。</p> <p>2年課程、准看護科が募集停止になるので、そのマイナスイメージを払拭する為にも3年課程や助産についての積極的なPRが必要と感じる。</p>

(6) 経営管理
ア 財務



自己評価	外部評価
<p>財務状況については、「適切」「ほぼ適切」が80%とやや低下しており、今年度新入教員も増え、年度末の報告がされていないためと考える。しかし事業報告は、学習環境・教育教材等必要なものは計画的に購入が進められ合同会議等で報告がされているため、「適切」「ほぼ適切」が82%と改善している。今後も、計画的に学習教材・学習環境を整え、会議を通して報告を行うことで周知していく必要がある。</p>	<p>引き続き一層の改善を図られたらと存じます。</p>

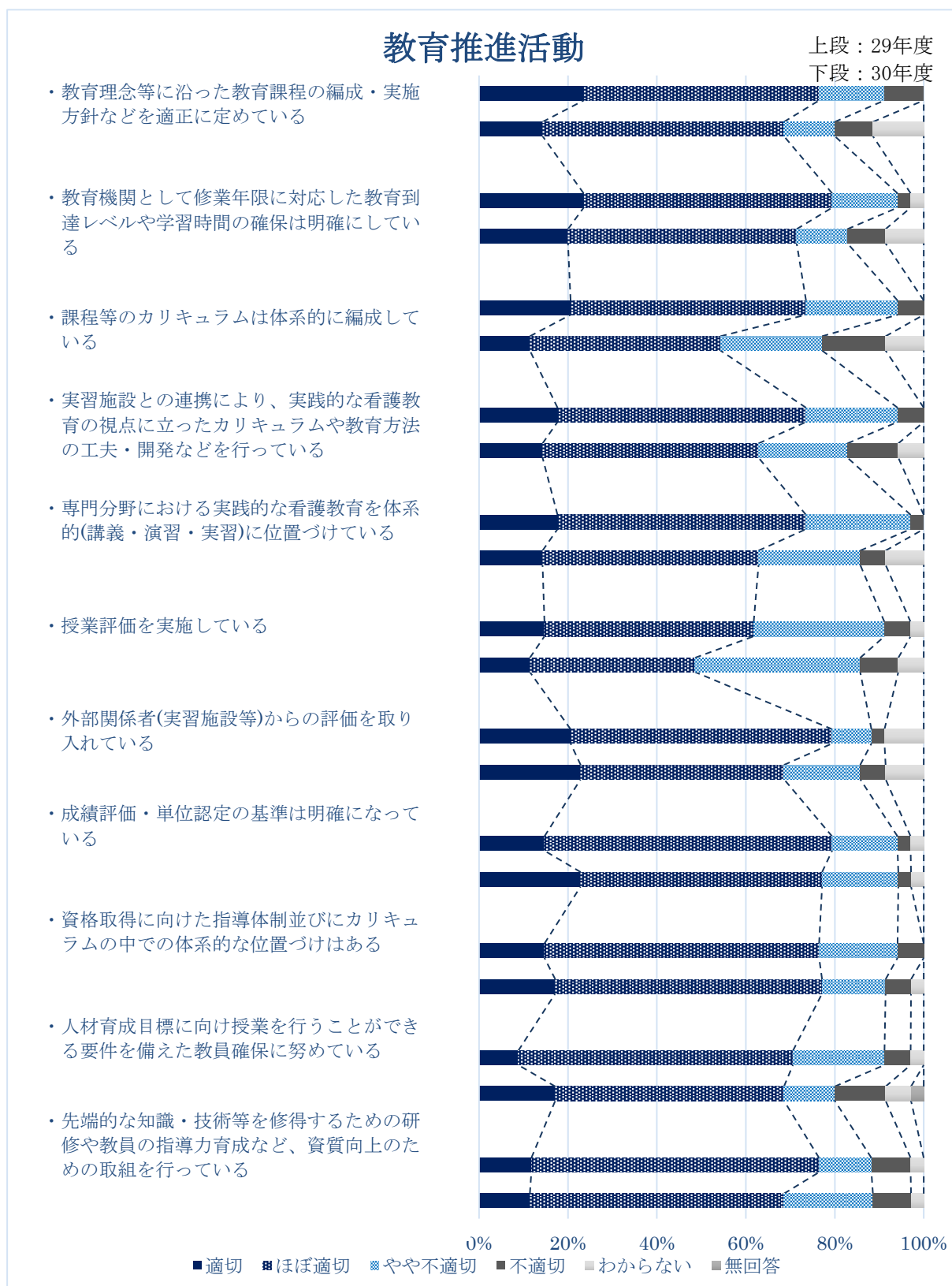
イ 法令遵守



自己評価	外部評価
<p>法令等を遵守した適正な運営、個人情報保護に対する教育対策、自己点検・自己評価の結果の公開については、「適切」「ほぼ適切」が 80%以上である。しかし自己点検・自己評価の実施及び問題点の改善については、「不適切」「やや不適切」「わからない」が 28%を占めており、組織的に行っている改善策やその成果については、日常の業務に直接的に影響を与えないため理解しにくい現状がある。また、今年度は新入教員が多くあり、具体的な学校運営に関する内容について理解が得られていないことも伺われるため、情報が浸透していくよう新人研修・会議等で強化していく必要がある。</p> <p>「学校の自己点検・自己評価を実施し、その結果を公開している」が 11%を占めており昨年度より、増加している。事前に評価項目の理解が理解できていないままの記載となっているため学校評価をすることの自覚が不足している。今後評価をするにあたり会議等で自己点検・自己評価の意味について再考していくことが必要である。</p>	<p>引き続き一層の改善を図られたらと存じます。</p>

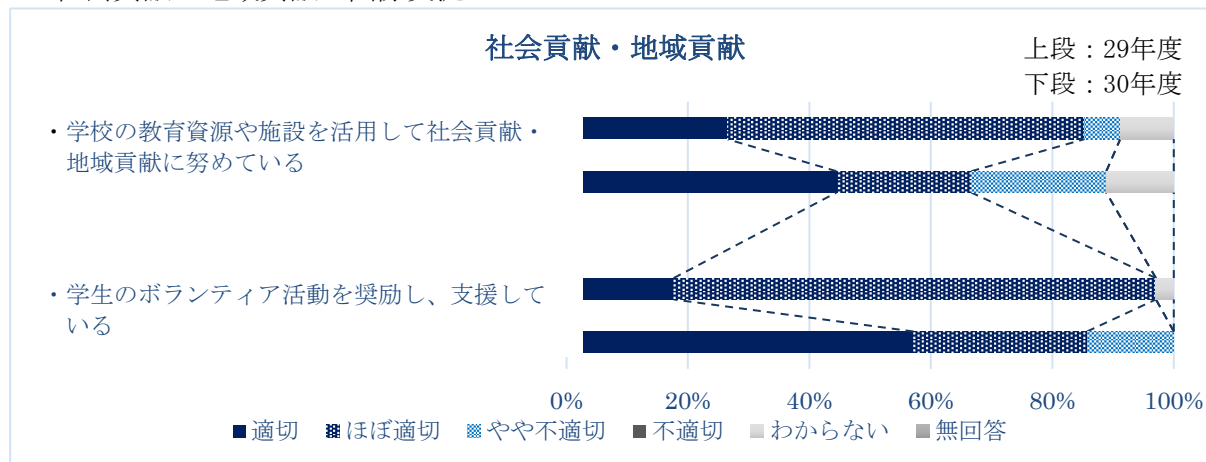
Ⅲ. 教育活動

(1) 教育推進活動



自己評価	外部評価
<p>全ての項目において、全体的に評価は低下している。特に「課程等のカリキュラムは体系的に編成している」は、「適切」「ほぼ適切」が54%と低下しており、3年課程において、教育内容の改変に取り組んでいる最中であるため、このように低下したものと考える。</p> <p>実習施設との連携をとりながら実践的な看護教育方法の工夫や開発に取り組むことに関しては、専門領域外の分野を担当せざるを得ない教員もいる状況から、実務経験が活かせず創意工夫にまでは至っていない。継続した人材確保・人材育成に努めていく必要がある。</p> <p>「授業評価を実施している」についても、昨年度よりさらに低下し「適切」「ほぼ適切」が、48%であった。新入教員に対しては、授業評価の意義・改善に向けての支援により実施できている傾向が伺えるが、キャリアのある教員は、改めて授業評価を受けることの定着が見られていない。今後、授業評価表の改善を行い、継続的に評価を行い授業改善していくことが望まれる。また、外部講師に対しては、授業評価そのものが周知されていない現状がある。講師室に評価表を設置しているが、授業評価の意義を十分に説明し、実施していくように働きかける必要がある。</p>	<p>授業評価については教える側にとって大変重要な自省資料となりますので、まず実施の充実を図られたらと存じます。また、管理職による教員への面談等も一層充実されればと存じます。</p> <p>カリキュラム編成については、教員に周知すべき。授業評価は、評価の良し悪しではなく、評価を実施し、改善に向けての努力が見える化するなどの工夫が必要。</p> <p>一部教育内容の改変また専門領域外の分野を担当せざるを得ない教員もおられるという中で、増えている新任教員がどう関わられているか気になるところです。</p>

IV. 社会貢献・地域貢献・国際交流



自己評価	外部評価
<p>学校の教育資源を使つての社会・地域貢献では、例年通り、地元の高校の校外実習を計4回の受け入れ、学校主催の看護職対象の研修会3回を開催した。その他、京都府看護協会、京都府助産師会、関係学会等の役員、理事、講師等を引き受けそれぞれが任務を遂行している。昨年度の教員評価では、約90%の者が肯定評価であったが、今年度は約70%と激減している。これは3年課程で、教育内容改変の取組みによる教員の負担感によるものであると考える。地域における本校の意義を理解し、業務内容の整理を行い対応していく。</p>	<p>本校の取組に大変御協力を賜り、心より感謝申し上げます。本校にとって御校と連携させていただくことは大変意義深いものとなっておりますので、今後とも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>全職員に活動の内容について広報を強化する必要あり。活動については問題なし。</p>

また、本校では、学生のボランティア活動を奨励し、支援している。具体的には、日々の朝の立ち当番での挨拶運動、学校玄関前での花の整備、清掃活動などを通して地域の人々との交流に努めている。さらに、学校祭でのバザーや古本市は地域の方々にとって恒例行事の一つとなっている。その他、看護の日の行事に併せた活動、献血、夏祭り等のお手伝い、出張授業（性教育実践）など毎年の恒例行事として積極的に行っている。このような実績を踏まえ、昨年度では、ほぼ100%が「適切」、「ほぼ適切」とし肯定評価の割合が高くなっていたが、今年度は90%弱と低減している。地域貢献に参加している教員は知っているが、それ以外の教員は知らないということが推測される。学校で行われている地域貢献が他人事とならないよう教員への周知は必須である。

【洛東高等学校健康福祉コース 実習受け入れ】

2年生→准看護科 2回

3年生→2年課程 2回

【洛東高等学校】

性教育 助産学科 10期生 1回

【ボランティア活動】

山城医療連携協議会災害訓練 14名

近畿地方 DMAT ブロック訓練 30名

おおやけの里ふれあい祭り 7名

「やったね！秋まつり」京都市やましな学園企画 15名

洛南病院 音楽祭 3名

命輝け京都第九コンサート 4名

【講師派遣】

京都府看護協会

実習指導者（看護師）講習会 平成30年10月～12月

看護論

奥山幸子

2年課程の教育制度

加悦浩美

母性看護学臨地実習

秋山寛子

実習指導の実際演習

秋山寛子

実習指導の実際演習

神農節子

准看護師キャリアアップセミナー「看護の動向とキャリア支援」

奥山幸子

チームの協働で看護力UP「看護師と准看護師の基礎教育の違い」

奥山幸子

看護教員継続研修 「自校のカリキュラム評価を踏まえたカリキュラム開発」

「効果的な臨地実習指導」

奥山幸子

洛和学園 実習指導者講習会 看護教育課程（2年課程）

奥山幸子

朱雀高校（全日制） 分野別模擬授業（看護専門学校）

増田よし美

【学会/職能関係】

京都母性衛生学会理事・副編集委員長

秋山寛子

京都府助産師会教育委員

秋山寛子

日本助産師会近畿地区研修会実行委員会・実行副委員長

秋山寛子

京都府看護協会推薦委員

秋山寛子

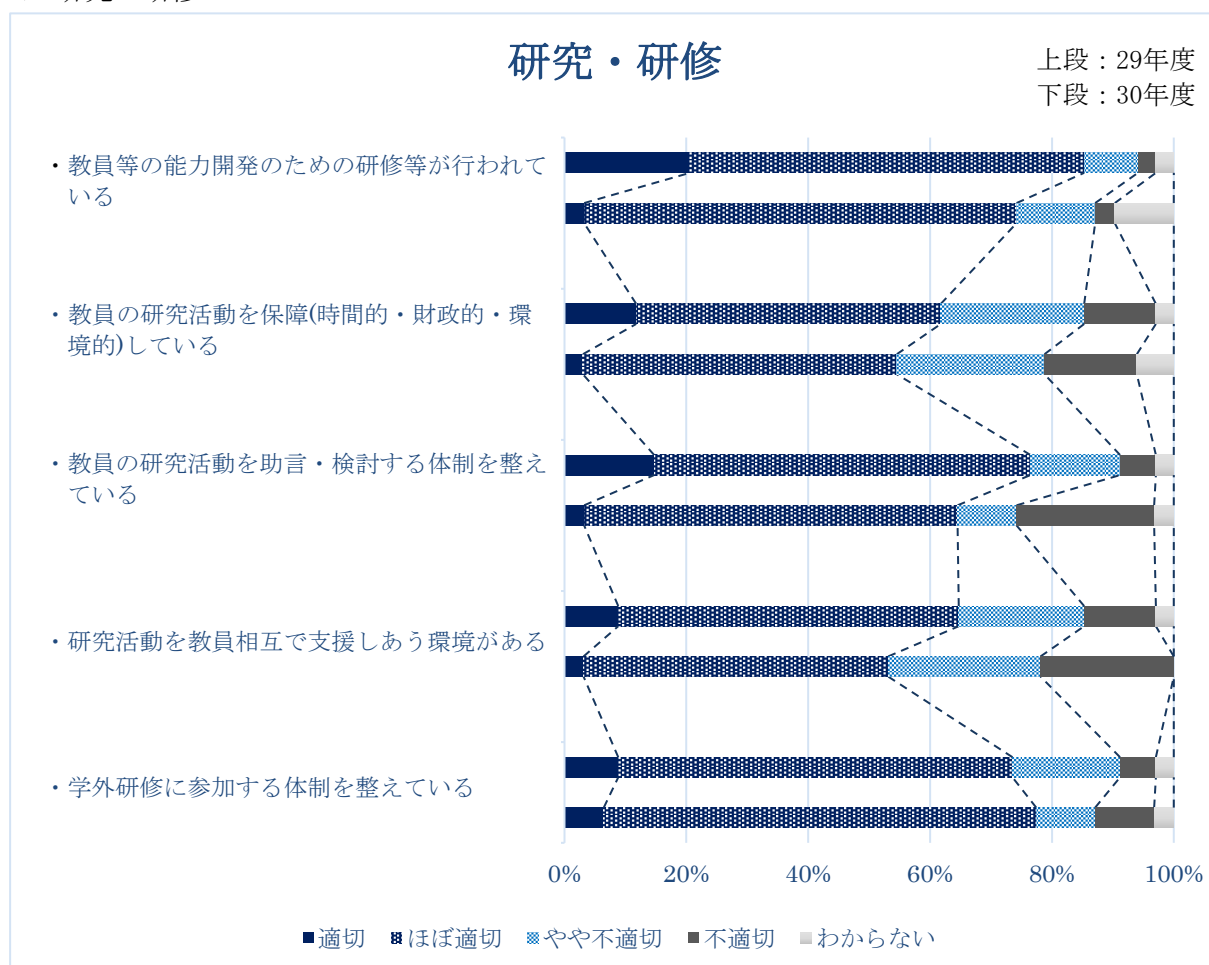
京都府看護協会総会協力員

橋戸好美

京都府看護協会准看護師制度特別委員会

奥山幸子

V. 研究・研修



自己評価	外部評価
<p>研究・研修に関する評価は、昨年よりも肯定評価の割合が低くなっている。中でも、「研究活動を教員相互で支援しあう環境がある」「教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)している」に関しては約50%の者が「やや不適切」「不適切」と否定的評価であった。実際は、教員を対象にした研修が準備されているにもかかわらずこの結果は、個人の能力開発への意識が薄いと思われる。なお、研究発表、研修参加の実績は別紙に示す。</p>	<p>教員にとって、「KKD(勘と経験と度胸)」や「昔取った杵柄」で指導にあたることは、学生の不信感につながりやすいと考えます。教える側には、自身で積み上げてきたものを大切にしつつ変化や進化に対応する柔軟な姿勢が求められますので、今後とも研究・研修活動の充実は不可欠であると思います。</p> <p>今年度は、学外研修は積極的に取り組まれており成果は出ている。しかし、学内の体制上の問題なのか教員相互の支援が不適切との割合が高く思えた。前記した、やはり会議等の時間不足が影響しているのか改善が必要と感じた。</p> <p>学校でも病院組織でも現場における研究は負担感が強い。研究成果</p>

	が現場で活かせる工夫で負担感を軽減でき、職員同士の協力体制を獲得でき、達成感が得られるのでは。
--	---

【学校内】

- 第1回研修会 「ナイチンゲール、ドラッガー、クリステンセンに学ぶ看護イノベーション あ
 なたも組織も元気になる 今日からできるアイデア満載！」
 講師 テルモ株式会社 取締役顧問 松村啓史 先生
- 第2回研修会 「臨床との連携をとりながら、効果的な学生指導を目指して
 ～発達障害等の理解と具体的な支援・指導のあり方～」
 講師 文部科学省 学校経営スーパーバイザー 後野文雄 先生
- 新人教員研修 4月3日（火）～6月16日（土）5日間 5名
- 実習指導教員研修 8月6日（月） 27名
- 研究授業 30年4月～31年3月 2名
- 公開授業 30年4月～30年3月 2名
- シンポジウム 12月25日（月）「各課程における国家試験対策と国家試験結果の現状」
 「国家試験対策、こんなことで困っています」
- 研究発表 3月25日（月）8演題
- 長期研修報告会 3月25日（月）大阪府教員養成講習会 2名

【学校外】

1. 学会発表

- 第30回日本看護学校協議会学会（鹿児島）
 「子育て世代の助産師が離職を決定するプロセス」
 橋戸好美・秋山寛子・増田よし美・守屋嘉奈子・井上沙織
- 第49回日本看護学会-看護教育-（広島）
 「児童虐待に関心のある看護学生の意識の学年比較～記述内容に着目して～」
 奥山幸子・西雄浩子
- 日本看護倫理学会第11回年次大会（東京）
 「臨地実習におけるインシデント・アクシデントの現状と学生の意識」
 市場千尋・奥山幸子

2. 学会・研修会等参加

【長期研修】

大阪府専任教員養成講習会 4月～12月（大阪）2名

【短期研修】

- 第49回日本看護学会-看護教育-（広島）1名
- 日本看護倫理学会第11年次大会（東京）1名
- 第43回日本精神科看護学術集会（愛知）1名
- 第30回日本看護学校協議会学会（鹿児島）2名
- 第28回日本看護学教育学会（横浜）2名
- 日本看護学校協議会近畿ブロック研修会（大阪）2名
- 京都府看護協会継続研修：効果的な臨地実習指導 6名
- 京都府看護協会継続研修：カリキュラム開発 3名
- 京都府看護協会 短期研修 15名
- 京都府看護学校連絡協議会 7名
- 京都市看護職能力向上・定着確保研修（京都）3名
- 京都看護大学 看護の智協働開発センター講演会（京都）5名
- 東京アカデミー看護教員支援セミナー（京都）4名
- 武田看護教育研究所セミナー（京都）1名
- e-nus セミナー（大阪）2名

学研メディカル秀潤社セミナー（大阪）2名
さわ研究所教員セミナー（大阪）3名
照林社看護教員実力アップセミナー（大阪）2名
メディックメディア看護教育セミナー（大阪）1名

3. 論文・執筆等

奥山幸子・西雄浩子：児童虐待に関心のある看護学生の意識の学年比較～記述内容に着目して～.

日本看護学会看護教育学術集会. 第49回日本看護学会論文集看護教育. 131-134. 2019.

橋戸好美・秋山寛子他：子育て世代の助産師が離職を決定するプロセス. 第30回日本看護学校協議会学会雑誌